

参政権保障委員会報告(2012/11/19,12/15)

参政権保障委員会では、毎月第3月曜日に定期会議を開催しています。

ビデオ上映会

都知事選、衆議院選のダブル選挙が、12月16日(日)に決まりました。これをうけて参政権保障委員会では、政見放送のビデオ上映会を12月15日(土)に3カ所(自立支援センター、葛飾、中野)で開催いたしました。今回は、ダブル選挙のため政見放送も都知事選、衆議院選の両方の政見放送を上映いたしました(午前 都知事選、午後 衆議院選挙)

当日はあいにくの雨で、出足に影響したかもしれませんが、自立支援センターおよび中野には、10名弱の方がお見えになりました。葛飾には数名の方が政見放送を観に来てくださいました。かなり長時間の政見放送になりましたが、みなさん熱心に観ていらっしゃいました。

コミュニケーションボードについて

細かい点の修正も終わり最終版ができあがりました。期日前投票および投票日当日に、多くの投票所で活用されたようです。また、事前にマスコミに告知を行なったので、NHK 手話ニュースや朝日新聞で取り上げられました。ただ、いくつかの投票所ではうまく連絡が行き届いていなかったために、探しても見つからないということもあったようです。今後は選挙管理委員会とも協力し、周知徹底に努めていきたいと思えます。

青年会議所との意見交換会について

10/18(木)に予定していた意見交換会は、いろいろな都合で延期になっています。

次回の会議は2013年1月15日の予定 (事務局 三村)

たましろの郷後援会役員会

11月17・18日に全聴福研が開催されました。たくさんの方にご協力いただき、無事開催することができました。ありがとうございました。

事務局より

・2012年度会員数

個人:1019名(新規1名)1103口

団体:50団体 103口

募金箱 254個回収

¥10,735,121(11月28日現在)

あゆむ会より

・1月13日に「どんぐりの家」の上演会と、講演会があります。

場所:足立区総合ボランティアセンター

時間:13:00~

ぜひいらしてください。

今後の予定

・1月20日(日)都サ連1日研修@大塚ろう学校

(文責 戸部)

都大会に行ってきました

11月11日(日)、高田代表が壇上にご招待頂いているので、その応援も兼ねて、東京都聴覚障害者大会に行ってきました。

第59回大会の開催地は大田区でした。「大森区」と「蒲田区」が昭和22年に合併し、両区の1文字を取って出来たのが「大田区」で、会場のアプリコは、あの蒲田撮影所の跡地だそうです。

プログラムはチラシ等でご存知だと思うので、この紙面でご紹介するのは省略して、今回、私がとても感動したことを3つ、カウントダウン方式でご紹介したいと思います。

まず感動の第3位...韓国からお招きした講師と同行の手話通訳者の関係。

日本では、講演者が演台の中央に立ち、通訳者は演台から外れ、しかも一歩後退した位置でというのが一般ですが、韓国の場合は、演台を2人で分け合っているか、まるで韓国手話を話す講師と日本手話を話す講師が並んでいるかのようで、2人の講師が同時に上着を脱ぎ、同時に手を動かし、吸う息・吐く息までぴったり合っているかのような印象でした。しかも、講師は、講演の間中、一度も通訳者に視線を向けず、というより、そこに通訳者が存在しないかのように、ご自分の話に集中しているのです。お互いの強い信頼関係を感じました。

次は感動の第2位...アトラクションの手話コーラス

アトラクションは有名な方をお招きして、というのが主流になっている昨今、大田区聴覚障害者協会と区内3つの手話サークルによる手話コーラスは、とても温もりのある手作り感で、ほのぼのとした気持ちにさせられました。誰もが、お互いを気にしながら自然にアイコンタクトを取っている様子は思いやりと仲間意識に溢れ、きっと例会日の違う3つのサークルとろう協が、時間を工面して集まり、練習を重ねたのだらうと、日頃のろう協とサークルの良好な関係がうかがわれ、羨ましささえ感じてしまいました。

いよいよ感動の第1位...表彰状の授与

長年ろう運動に携わっていらした長老の方々に混ざって、故甲谷幸一さんが表彰されたこと。しかも港区聴覚障害者協会の推薦であり、サークル代表ではなく、港聴協の会長さん自らが彼の代理として感謝状を受け取られたこと。49歳の若さで人生を終えたとはいえ、彼の活動がどんなに素晴らしく、どんなに濃いものであったか、そしてどれだけの者から慕われ信頼されていたかがよく分かります。とても真似は出来ないけれど、少しでも彼のように心の通った活動が出来たらと強く思いました。

(事務局長 河野)

広報班の活動報告

サークル訪問記 ～手話サークル「すみだ」～

11月9日(金)東武伊勢崎線曳舟(ひきふね)駅近くの「すみだボランティアセンター」に高田代表と二人で頭金会長を訪ねました。夜6時半から8時45分までとのこと、都サ連に新規加入して頂いたお礼やPRを兼ねての定例会参加です。部屋に入るといきなり目に飛び込んできたのが大きな黒板に張られた「声×」のマーク。7名ほどろう者の参加がありサークル会員も口話こそあるものの、声は出さずに手話を一生懸命繰り出していました。手話サークルの大きなテーマの一つ「声なし」の定例会。

当日は学習の時間で講習会の中級、上級、通訳養成クラスの生徒そして講師と多彩な顔ぶれの中で「私の健康法、ストレス解消法、節約法」を順番に前に立ち手話でスピーチです。声なしの効果はすぐに表れました。部屋の全員がろう者の手話に目線を集中しています。聴者が手話する時には、ろう者の反応を見て通じたかどうかを皆で確認しています。部屋の中の一体感、まさにそれが「声なし」の意味なのですね。休憩の後10分ほど時間を頂き高田代表と二人で挨拶、代表からは都サ連加盟のお礼と都サ連の歴史や最近のサークルの現状について、耳の日、一日研修などへの協力依頼がありました。時間が経つにつれて頭金会長や原西副会長を中心に、会員が気持ちを一つにサークルの時間を楽しみに集まっておられるのが伝わって来ました。ろう者が「ストレス解消法はこのサークルに参加することだ！」と真顔で言いきっておられたのが印象的でした。最後のお知らせの板書一つ取り上げても、会員が順番に担当し聞いた文章を要約する練習に利用しているとのこと、その意識の高さに感心させられました。先日一日研修にもすみだからは要員5名、一般13名、ろう者2名の参加で正にそれを裏付ける結果となっています。突然の訪問にも暖かく迎えて下さった「手話サークルすみだ」の皆さん、本当に有難うございました。来年の1月20日の一日研修などで会い出来るのを楽しみにしております。これが手話サークルの基本形では?などと考えながら曳舟を後にしました。

(文責:広報 山崎)

広報班の活動報告

サークル訪問記 ～新宿区手話サークル～

11月22日(木)都営大江戸線、若松河田駅近く「新宿区立障害者福祉センター」に高田代表と二人で訪ねました。7時から夜の部「情報セミナー」の時間を頂き、東日本大震災の救援活動の報告の時間を頂いていたからです。30名程の参加者(ろう者1名)の中、高田代表から都サ連への新宿区手話サークルの日頃の支援協力に対するお礼が述べられました。そしてすぐに本題へ。昨年9月に義援金手交の目的で視察した際の岩手のDVDを観ながら被災地の様子を私から説明しました。

続いて高田代表から岩手に続き11月に訪問した福島の様子を説明。皆さんの真剣なまなざしの中で、私は地震津波の恐ろしさと被災者のその後の生活に改めて思いを致し、胸が締めつけられる思いでした。質疑応答では増本会長から、震災の教訓から防災マップに取り組むなど図ったが簡単ではない。東北同様の事態を想定し都サ連そして手話サークルでも具体的な対策を講じるべきではないかとの意見を頂きました。高田代表からも地域の手話サークルが地域のろう者との連携を強化し具体策を考えるのが基本だ。その上で東京都全体の連携のネットワーク作りが必要。九州県手連の会長からの呼びかけの通り全国手話サークル連絡協議会を立ち上げて被災地支援を全国ネットで行えるようにするなどの構想も将来的にはありうる、との説明がありました。最後に来年1月20日の都サ連一日研修「忘れない!東北を」について触れ、ろう者の安否確認の現場など貴重な体験談を当事者から直接聞くことで東京の対策を考える時のヒントにしたいと呼び掛けてセミナーを終えました。思ったことや気づいたことを率直に言える自由な雰囲気の中、あっという間に2時間が過ぎ高田代表は第二部交流会へ(笑)賀来事務局長、色々のご配慮頂き有難うございました。新宿の皆さん、1月20日に再びお会いしましょう!

(文責:広報 山崎)

